

令和 8 年度入学試験 出題趣旨・解答例（採点基準）【小論文】

〔A 日程〕

（出題趣旨）

I 社会科学にかかる内容を主題とした文章として、本問では、都市と緑地のあり方について記した近時の論考を素材に、その内容を的確に理解することができるか、とりわけ、本問で説かれている社会的共通資本といった考え方について具体的なイメージをもって内容を把握することができるか、説かれている内容を具体的に表現することができるかなど、法科大学院教育の前提として、基礎的な読解力、論理的な文章表現力、推理能力を問う趣旨の問題である。解答に当たり、こなれた日本語で、説得力をもって記述することができるのかに注目した。

II 各文章から論理的に抽出できることを組み合わせて、説明できるかを見るために出題した。

（解答例・採点基準）

I 設問 1 については、緑地といった自然環境がどういった点に着目して社会的共通資本と位置付けられるのか、その理由や考え方を的確に、問題文の文脈に沿って把握できているのかに注目して採点した。とくに、宇沢弘文が自然環境として緑地が社会的共通資本になりうることを記述していることから、緑地が同氏の掲げる（当該資本にかかる）4つの要件を満たす点をわかりやすい文章をもって表現することが求められる。たんに問題文から抜き出すだけではなく、「自分の言葉で」表現できているかに着目した。内容としては、緑地が、豊かで文化的・経済的な社会生活に貢献すること、魅力ある生活を可能にすること、人間の尊厳を守るうえで不可欠なものであること、緑地が共通の財産と呼ぶべき性格をもち、国や地域でその時々政治的プロセスを経て合意形成され正当化されるべきことなどが、具体的に書かれているかに着目した。

設問 2 については、著者の緑地にかかる定義を的確に理解した上で、問題文で指定された定義部分について、具体的にその内容を説明させる趣旨の問題である。論文から一般的な命題を取り出し、それを自分の言葉で具体的に表現することができるかといった能力を問うものである。コミュニティから地球レベルまでの狭域から広域にわたる連続的な緑地空間の関係に着目し、そうした空間が相互に影響し合い、一つのネットワークを構成しているといった相互依存的な関係性を重視した見方を説明したうえで、その機能を十分に発揮させるためには法律、技術、財源、マネジメントといった異なった観点からの検討や配慮が不可欠であり、そうした多面的検討を可能にするためにも計画という手法を用いた管理が必要であり、その計画も目標達成に向けた手順や方法まで具体的に掲げた戦略と呼ぶにふさわしいものでなければならず、単にあるがままの自然を保護すれば足りるものではなく、国や社

会を挙げて時間をかけて作り上げていかなければならないといった筆者の主張を具体的に説明することが求められる。

Ⅱ 1

(1) 偽である。

(2) C がサイコロで 2 の目を出した場合であっても、2 枚とも 13 の場合には、点数は 26 となる。また、その場合には、「合計点数が同点の場合には後の順番の者が勝利する」というルールからして、B よりも順番が後の C が勝利する。

2

(1) 真である。

(2) A がサイコロで 6 を出したとする。その場合に、13 を引かずに得ることができる最高得点は 12 が 4 枚、11 が 2 枚の場合であり、合計 70 点であり、71 点を下回る。したがって、71 点を獲得するためには、最低限、13 のカードを一枚引かなくてはならない。

(1) については、真、偽の回答があっていた場合には 5 点を与える。

(2) については、(1) が不正解である場合には 0 点とし、(1) が正解であった場合には、論理的関係が明確に説明できているか否かに応じて、得点を与える。

〔B 日程〕

(出題趣旨)

I 一定以上の分量を有する文章を読み、そこで書かれていることを正確に過不足なく理解できるか、そのような理解、当該文章から論理的に導かれうる内容、当該文章に関する自己の見解等を、論理的かつ説得的に、日本語として正確な表現で示すことができるか、といった観点から、受験者の有する学識及び教養、論理的でバランスのとれた思考能力、それを明確かつ説得的に表現する能力を測ろうというものである。

II 各文章から論理的に抽出できることを組み合わせて、説明できるかを見るために出題した。

(解答例・採点基準)

I 設問の文章は、科学否定論者の考え方がどのように形成されるのか、またその考え方に影響を与えるにはどのような手段が有効なのか、といったテーマに関する書籍である、リーマッキンタイア著・西尾義人訳『エビデンスを嫌う人たち』の第2章「科学否定とは何か」から、主にアイデンティティとイデオロギーに関する箇所を抜粋したものである。

設問1は、抜粋した文章の末尾に書かれた「足りない知識を埋めるという方法では、科学否定論者を心変わりさせることはできない。」を取り上げ、その根拠を整理して分かりやすく説明することを求めている。

抜粋した文章には、「足りない知識を埋めるという方法」の限界について述べたとと思われる箇所がある。これらの記述がされている箇所において、どのような根拠が挙げられているかを考え、それらを整理していくことで解答が得られよう。その際、文章をそのまま書き写すのではなく「整理して分かりやすく説明」することが必要である。

設問2は、この文章は、科学否定論者を「心変わりさせる」にはどうすべきかだと述べているかについて、設問1と同様に、その根拠を整理して分かりやすく説明することを求めている。

抜粋した文章は科学否定論者との会話の目的として、「相手に新しいアイデンティティを身にまといてもらふこと、証拠を重視するとはどういうことかを知ってもらふこと、そして、科学者のように考えるとはどんな意味かを理解してもらふこと」を挙げている。これらの記述等から、科学否定論者を説得する際に有効と考えられる手法を挙げていくこととなる。なお、設問1と同様に、ここでも文章をそのまま書き写すのではなく「整理して分かりやすく説明」することが必要であることに留意すべきである。

II

1

(1) 偽である。

(2) ミツバチは刺す前には必ず警告を発しているという文章の記述からして、警告なく刺

すことはない。

2

(1) 真である。

(2) 香りの強い化粧品を見につけている人は警告の対象となるという文章の記述からして、ミツバチは警告しにくことがある。

(1) については、真、偽の回答があっていた場合には5点を与える。

(2) については、(1) が不正解である場合には0点とし、(1) が正解であった場合には、論理的関係が明確に説明できているか否かに応じて、得点を与える。

〔C日程〕

(出題趣旨)

I 写真をテーマとした社会科学の文章について、その内容を的確に理解することが出来るかを趣旨とする問題である。主体・客体の入れ替わりなど、法曹として求められる基本的な考え方の素養の有無を確認し、更に基礎的な読解力、論理的な文章表現力などを問うている。文章の読解の程度と、文章力に応じて得点を与えている。

II 規定から論理的帰結を導きうる思考能力とそれを明確に表現する能力を有しているか、測定しようとするものである。

(解答例・採点基準)

I (1) 本文中の「逆転現象」とは、カビルの家において、物理的な方位（東西）と、そこに結びついた文化的価値（明暗や男女の区別）が、家の「外」から「内」へ入る際に、鏡のように反転して現れることを指している。

カビル文化では、「男性・外・明るい・東」と「女性・内・暗い・西」という対比が基本的なルールとなっている。男性は太陽が昇る「東」の表口から家に入るが、家の中に入ると、その戸口から差し込む光は正面にある「西の壁」を照らし出す。その結果、家の中では物理的な西側が「最も明るい場所」となり、本来は「暗い側」であるはずの西の壁が、男性が陣取るべき「家の中の東」という役割を担うことになる。つまり、男性が常に「明るい側に身を置く」という自らのアイデンティティを一貫させるためには、家という境界を越える瞬間に、方位の意味そのものを逆転させる必要がある。このように、単なる方角の規則だけでは説明できない、人の動きや光の当たり方によって空間の意味が組み変わってしまう現象を、著者は「転倒」と呼んでいるのである。

(2) 「カビルの家」の世界から読み取るべき内容とは、世界の意味は固定されているのではなく、観察者である主体の視点や身体移動、およびそれによる環境との相互作用によって、絶えず変容し生成されるものである、ということである。

具体例として、大学のキャンパスとその訪問者の例が考えられる。

大学のキャンパスには、空間を教室や研究室、図書館など様々な場所が設けられている。そして、そのキャンパスに存在を想定されている学生や教員などが、それらの場で活動を行うことによって、当該場所に意味が付与されることがある。学生・教員に開かれた広場などは、食事をする存在によって食事場となり、学生と教員が議論することによって学問の場となる。そして、学外者である訪問者がその場に存在する事によって、当該場所は、キャンパス内での移動通路であったり、学外者に広く開かれる交流の場であったりするなど、その意味を変える。移動する身体と環境の相互作用によって、その都度その意味が変化していくことになり、静止した図面だけでは決して気づけない「生きた空間の論理」を発見することが可能となる。カビルの家の物理的な構造とその建築的構造の意味は、そこに住む人々に身体化

される。

私たちが読み取るべきは、分析者自身もまた自らの認識が特定の文化の中で身体化されている（ハビトゥスを持っている）ことを自覚し、定点観測的な客観主義に陥ることなく、対象との相互作用の中で真理を記述しようとする「移動する視点」の重要性である。

II

1

（１）真である。

（２）本を借りる（館外に持ち出す）ためには登録会員である必要があるが、館内利用についての規定は「５年以上経過した旧版」の例外を除き、非会員に認めるとは読み取れない。したがって、非会員が発売４年の本を館内で読むことはできないと判断される。

2

（１）偽である。

（２）規定２（自習室の利用）において、予約は「前日まで」に行う必要があると定められている。たとえ学生会員であっても、またオンラインでの操作であっても、当日の午前中に予約を入れることは規定に反する。「予約したとおり利用した」という記述は規定上成立しない。

（１）については、真、偽の回答があっていた場合には５点を与える。

（２）については、（１）が正解であった場合には、論的關係が明確に説明できているか否かに応じて得点を与える。